



古今和歌六帖標注

三

特別
イ 4
3163
97(3)



貴
14
3163
970)

古今和歌六帖第三

水

せ	あ	い	あ	あ	あ	あ	あ
あ	い	け	川	し	あ	あ	あ
う	う	ぬ	あ	あ	あ	う	あ
い	た	ま	あ	あ	あ	あ	あ
あ	さ	う	や	あ	あ	あ	あ
ま	そ	き	な	あ	あ	あ	あ
た	ふ	あ	江	あ	あ	あ	あ
あ	ち	あ	あ	あ	あ	あ	あ

あはれ	あはれ	あはれ
いかに	あはれ	あはれ
みるえ	あはれ	あはれ
なまは	あはれ	あはれ
あやし	あはれ	あはれ
あはれ	あはれ	あはれ
あはれ	あはれ	あはれ
あはれ	あはれ	あはれ
あはれ	あはれ	あはれ



五王拾遺
入九集

源一太郎
新撰新朗伊勢
ぬ探朗

此ら後撰より
と古今よ
伊勢とあれ
万葉十一
言出而云
在

古今戀三
貫之
太宰大貳高遠
續古今神祇

古春上新撰家

伊勢

後拾遺誹諧 藤原実方朝臣
 まいぢぬおまゆあひつらつみん
 あまふあまび〜風ふまふすふ

万葉四 笠女郎
 伊勢海之磯も動雨因流波忍入雨
 總渡鴨
 うさの女郎とみらんをさうとま字
 を上下よまあやまめらふ

後遺一〜大伊勢集
 いぢぬおまゆあひつらつみん
 大和

ほぬおあまび〜たつみん
 金意下〜代意一伊勢集
 まいぢぬおまゆあひつらつみん
 万十一 續千意三人丸
 お〜おまゆあひつらつみん
 古本人丸集

拾賀 家
 まいぢぬおまゆあひつらつみん
 古賀

か〜

第二巴出
 まいぢぬおまゆあひつらつみん
 万十四 夫雑〜
 帝陸
 水鳥
 同八笠女郎
 まいぢぬおまゆあひつらつみん
 水鳥

三十一

伊勢物語
 けうけてしひ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
 こつてあ〜〜あ〜あ〜あ〜あ〜

万葉十一
 吾妹子雨意雨可有牟與爾住鴨之
 浮宿之安雲無

第一巴出
 まいぢぬおまゆあひつらつみん
 万七 夫雑一朝人
 妹〜おまゆあひつらつみん
 同四丹波大娘 同雜五地〜
 う〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
 夫

あ〜

後遺一〜
 まいぢぬおまゆあひつらつみん
 大冬二〜
 風〜おまゆあひつらつみん
 人〜おまゆあひつらつみん
 夫

か〜

童
 羽〜おまゆあひつらつみん
 第一巴出
 まいぢぬおまゆあひつらつみん
 童

古意三よん人か
池よきむ名城をきみのむさあかかきしわらぬかきしけり

ちをむらにむ指ちく指ちくけりけりかきしわらぬかきしけり

君か名も系名も城惜カカのむらにむ指ちく指ちくけりけり

白妙の波童ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

新古今集
元真集
ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

新古今集
元真集
ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

家ちくちくけりけりちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

新撰萬葉下

白妙之浪道別手哉春者來留風立
毎丹花裳折壁里

古今雜上
よん人か

あまよてゆへあまがゆへ

契沖云鴨の影を厨を入るいづ但

鴨サハハハ鴨ハハハ鴨ハハハ鴨ハハハ

かきしわらぬかきしけり

かきしわらぬかきしけり

列子昔帝篇云海上之人有好滷鳥
者其目之海上從滷鳥游滷鳥之至
者百數不止其父曰吾聞滷鳥皆從
汝游汝取來吾玩之明日之海上滷
鳥舞而不下也云

古今戀二
かきしわらぬかきしけり

かきしわらぬかきしけり

かきしわらぬかきしけり

かきしわらぬかきしけり

萬葉十一
昔多頭乃擲入江乃白首乃知為等
と痛鴨

古意三よん人か
池よきむ名城をきみのむさあかかきしわらぬかきしけり

ちをむらにむ指ちく指ちくけりけりかきしわらぬかきしけり

君か名も系名も城惜カカのむらにむ指ちく指ちくけりけり

白妙の波童ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

新古今集
元真集
ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

新古今集
元真集
ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

家ちくちくけりけりちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

ちくちくけりけりかきしわらぬかきしけり

大伴阪上郎女

同四
よん人か

かゝる海字ハイヤクこの海字ハイヤク
夫木雜六 河 ともいふ
かめはのうらももくはたのうら
述異記云魚一十歳生毛壽五十歳
謂之神龜壽一万年謂之靈龜
華盛集

童蒙抄卷九ハ漢書經不寐トイリ
とくち抄抄すハ漢書ハハカ
文又よるハ宋丁用晦芝田録云
鑰必以魚者取其不瞑目守夜之義
テ々

此ハ釣を物の名あり

貫之集
いさ
いさ

いさ海釣す海支魚を釣海支魚うけぬきす海支魚これ

いさ海釣す海支魚を釣海支魚うけぬきす海支魚これ

いさ海釣す海支魚を釣海支魚うけぬきす海支魚これ

いさ海釣す海支魚を釣海支魚うけぬきす海支魚これ

いさ海釣す海支魚を釣海支魚うけぬきす海支魚これ

いさ海釣す海支魚を釣海支魚うけぬきす海支魚これ

いさ

万葉七
塩早三磯回荷居者入潮為海人鳥
屋見濫多由久和礼乎

夫雜九ハ和泉
さきさき釣ふけの浦の海士海士なまきりなまきりつらつらつらつらのりのりん

万土古本全集 夫雜八ハ九
に鐘に鐘播磨播磨たたくの浦たたくの浦はすはすすすつつのりのりん

同三人九 又十五夫雜七浦
あつたつたのりあつたつたのりはすはすすすつつのりのりん

夫雜五島 又九ハ人ハ
あつたつたのりあつたつたのりはすはすすすつつのりのりん

河常夏
あつたつたのりあつたつたのりはすはすすすつつのりのりん

同
あつたつたのりあつたつたのりはすはすすすつつのりのりん

あつたつたのりあつたつたのりはすはすすすつつのりのりん

あつたつたのりあつたつたのりはすはすすすつつのりのりん

山城
あつたつたのりあつたつたのりはすはすすすつつのりのりん

同
あつたつたのりあつたつたのりはすはすすすつつのりのりん

新撰字鏡云鯉食夜反
拾遺戀三
おろのひのひももくはたのうら
同雜秋 清原元輔
月々の田上川 ふさふさけき

あつちのひさし...

源氏若紫巻云たつたのむすこをさしてとて
こころたのむくあふあやううさく
あつちのむすこひうあふあつちのむすこ
河海よりゆめびとに實あるに...

あつちのひさし...

川

河若紫
なごり大はなむねむらあぬあつちのむすこ

万九回入宿称 入在集のたきりさる万
一のたきりさる万
拾難に入を のうづまのたきりさる拾九
同七 ころりま万

同三家持 玉雜二
なごり大はなむねむらあぬあつちのむすこ

なごり大はなむねむらあぬあつちのむすこ

忠分

雲春下 夫春六藤花家
なごり大はなむねむらあぬあつちのむすこ

万七 大和
なごり大はなむねむらあぬあつちのむすこ

伊勢集
なごり大はなむねむらあぬあつちのむすこ

頼基集
なごり大はなむねむらあぬあつちのむすこ

拾遺戀四

つのおれい...
は...
夫木冬二水鳥...
ちくす川入江の...
らきりけ...
六帖と...の本...

万葉十四

阿須可河泊之多雨其礼留乎之良
受思天勢奈那登布多理左宿而久
也思母

富士山記云有大泉出自腹下遂成
大河其流寒暑水旱無盈縮云云

躬恒集
あつちのひさし...

はなむねむらあぬあつちのむすこ

新勅雜四... 夫雜六
はなむねむらあぬあつちのむすこ

信濃
はなむねむらあぬあつちのむすこ

大和
はなむねむらあぬあつちのむすこ

新勅雜四... 夫雜六
はなむねむらあぬあつちのむすこ

赤勘
はなむねむらあぬあつちのむすこ

大和
はなむねむらあぬあつちのむすこ

上野
はなむねむらあぬあつちのむすこ

大和
はなむねむらあぬあつちのむすこ

山城
はなむねむらあぬあつちのむすこ

古徳山...
はなむねむらあぬあつちのむすこ

山城
はなむねむらあぬあつちのむすこ

夫雜六...
はなむねむらあぬあつちのむすこ

契沖云由ふせ川いづくふありとも
志く肥後ふありともきほど万葉の
うこのつき大和めきり

古今物名 伊勢
あまのそねおきりてちりちり
ふのそねとも風やあまのそ

万九 夫雑六より人へ
おのりまきりて
夫雑六より人へ
いづる越中
こまきつ万夫
おのりまきりて
おのりまきりて
おのりまきりて

万七 夫雑六より人へ
我れを妹とて
後三陽成院御製
流はさのこまきりて
常陸
ついで
ぬ後

はしりゆき

後春下
おのりまきりて
常陸
はらりて

おのりまきりて
陸奥

おのりまきりて
後三陽成院御製

万九 夫雑六より人へ
おのりまきりて
大和
おのりまきりて

夫雑六又八掩より人へ
おのりまきりて
山城
おのりまきりて

おのりまきりて
おのりまきりて

万葉十一
玉坂吾見人何能依以亦一目見

同三
島傳敏馬乃埒乎許藝回者日本戀
久鶴左波雨鳴

同一
材木朝臣人丸
雖見飽奴吉野乃河之滯瀨乃絶事
無久復還見年

を掃すもふみと川ひみこと川の流りあ
るべし 信濃地名考更級郡の條に
御言川赤詳今姥石の西ふ流ありて
八幡の南へ出てつみま川入るを
宮川といふはあまの人の掃すまを
みこ川といふ

新勅雑四より人へ
陰園よりありて
おのりまきりて
おのりまきりて

夫雑二十萬より人へ
おのりまきりて
振津
おのりまきりて

同雑六より人へ
おのりまきりて
赤勘
おのりまきりて

おのりまきりて
波ヲカス
山城
おのりまきりて

万六 皇朝臣金持 夫雑六より人へ
おのりまきりて
おのりまきりて

大雑六より人へ
おのりまきりて
山城
おのりまきりて

万九 鳥足
おのりまきりて
おのりまきりて

夫雑六 兼輔
おのりまきりて
ちくま夫
足下ヲカヌ
おのりまきりて

おのりまきりて

古意五 吉本家
おのりまきりて
山城
おのりまきりて

夫雑六より人へ
おのりまきりて
同上
おのりまきりて

紀伊
 千早の河を渡りて千早の山に登りて
 千早の山に登りて千早の山に登りて

千早の山に登りて千早の山に登りて
 千早の山に登りて千早の山に登りて

千早の山に登りて千早の山に登りて
 千早の山に登りて千早の山に登りて

千早の山に登りて千早の山に登りて
 千早の山に登りて千早の山に登りて

千早の山に登りて千早の山に登りて
 千早の山に登りて千早の山に登りて

千早の山に登りて千早の山に登りて
 千早の山に登りて千早の山に登りて

千早の山に登りて千早の山に登りて
 千早の山に登りて千早の山に登りて

千早の山に登りて千早の山に登りて
 千早の山に登りて千早の山に登りて

千早の山に登りて千早の山に登りて
 千早の山に登りて千早の山に登りて

千早の山に登りて千早の山に登りて
 千早の山に登りて千早の山に登りて

千早の山に登りて千早の山に登りて
 千早の山に登りて千早の山に登りて

千早の山に登りて千早の山に登りて
 千早の山に登りて千早の山に登りて

万葉七

武庫河水尾急嘉赤駒足何久激沽
 瀬流鴨

師翁云クオシハ皆山川のほとけふ
 のよめられ今回家におもせ

一種別あるまのこそたて

万葉致證ふ共へられ

頼政集

新の歌をききあふまろけり
 つきやうしこあひやうす地

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

千早の山

玄關云雄略天皇うづき山に橋の
 附神送天皇至又目川これうづき山
 のふもふある川をさす市郡の地を
 まさたれん
 清正集
 うづきや久米のつらてつらて
 わつてつらてつらてつらて
 契沖云石上山道那橋ハ添上郡
 あれとむぢうけれはしるのうづ
 きの橋とよめり山科ハ治那石田

夫雑三ふふふ
 かつまやうとふふふ
 万五 同
 いふふふふふふふふ
 契沖云ふふふふふふふ
 夫雑三ふふふ
 遠江

同 夫春五ふふふ
 子枕ふふふ
 夫春五ふふふ
 山城 古本家持集
 夫雑三ふふふ
 拾春ふふふ
 大春五又雜六河ふふふ
 夫雑三ふふふ
 大和
 夫雑三ふふふ
 夫雑三ふふふ
 夫雑三ふふふ
 夫雑三ふふふ
 夫雑三ふふふ

久世郡あれ山科の石田よりわが
 書紀景行紀不意之間倭亡我子
 續紀天應元年詔云安加良永佐須
 加事火云
 契沖云さひうけまけりあまの
 もももめをさあそぬるをあまの
 もせむいりふたふさう他ゆめし
 せであまのめをさあそぬる
 大和物語云さひうけりあまの
 せでさひうけひけり
 ちかしの格さつこく此相は後
 あり餘材抄後万葉論まじり
 して里より

拾遺賀 伊勢

此のまがのそを物名ふしあり
 大さみむれあまのつらさ
 おもひこころのあつげあまの
 ちかしの格さつこく此相は後
 あり餘材抄後万葉論まじり
 して里より

夫雑二一八の浦のひら橋をさ
 中 ちかしの格さつこく此相は後
 あり餘材抄後万葉論まじり
 して里より

以上二一
 伊勢

古今雜上

世のそりありあまの八はの
 ちかしの格さつこく此相は後
 あり餘材抄後万葉論まじり
 して里より

拾遺別

もろよにやぬかひのやつ格ハ
 下同

後雑一伊勢 家
 夫雑二一八の浦のひら橋をさ
 中 ちかしの格さつこく此相は後
 あり餘材抄後万葉論まじり
 して里より

以上二一
 伊勢

万葉十一

幾多毛不零雨故吾背子之三名乃
 許多瀧毛動響二

拾遺戀二
かきつりて人のこころを
こころをこころをこころを

童
山城
かきつりて人のこころを
こころをこころをこころを

延喜内膳式云山城國近江國水魚
網代各一處其水魚始九月迄十二
月三十日貢之

万三新吉雜中
新撰家卅
大冬一
山城
かきつりて人のこころを
こころをこころをこころを

新拾冬家
かきつりて人のこころを
こころをこころをこころを

新拾遺ふひせの枝のこころを
こころをこころをこころを

同
同
かきつりて人のこころを
こころをこころをこころを

家
大冬一家
大和
かきつりて人のこころを
こころをこころをこころを

新古今戀一
あまのこころをこころを
こころをこころをこころを

後雜大江興俊
河橋姫貫之
かきつりて人のこころを
こころをこころをこころを

万葉四
三熊野之浦乃濱木綿百重成心者
雖念直不相鴨

拾雜春貫之家
万土
かきつりて人のこころを
こころをこころをこころを

契沖云ちひさき舟ふふふだふだ
あまのこころをこころを
こころをこころをこころを

古意田
入江
かきつりて人のこころを
こころをこころをこころを

和名抄三推を舟棚とよめり
書紀景行紀日本武尊御歌小比等
菟麻菟比苦珥阿利勢磨云とよ
ませねへ
伊勢物語
くつりて人のこころを
こころをこころをこころを

河標零
長柄存命
まある河
かきつりて人のこころを
こころをこころをこころを

後拾遺雜一 三條院御製

あはれみづらきまはるの月のかげ

後撰戀二 おきるせ

たつこゝろをさきとまへてはらふの浦

續後拾遺四うな家 さい家
こゝろをさきとまへてはらふの浦

あはれみづらきまはるの月のかげ

あはれみづらきまはるの月のかげ

あはれみづらきまはるの月のかげ

あはれみづらきまはるの月のかげ

いけ

夫雑五十一人 大和
たつこゝろをさきとまへてはらふの浦

しゅん

第一巴川
あはれみづらきまはるの月のかげ

大 夫雑五十一人 大和
あはれみづらきまはるの月のかげ

万葉十六
無耳之池 羊蹄 恨之 吾妹兒之來乍
潛者水波將淵

後拾遺意四 小弁

あはれみづらきまはるの月のかげ

古今戀二

あはれみづらきまはるの月のかげ

契沖云万葉十六勝間田の歌此左

註新田部親王出遊干堵裡御見

勝間田之池云とちこちとて思ふ

新勅撰戀二 右近大将道綱

あはれみづらきまはるの月のかげ

代意三十一人 大和
あはれみづらきまはるの月のかげ

夫雑五十一人 大和
あはれみづらきまはるの月のかげ

あはれみづらきまはるの月のかげ

あはれみづらきまはるの月のかげ

あはれみづらきまはるの月のかげ

あはれみづらきまはるの月のかげ

あはれみづらきまはるの月のかげ

あはれみづらきまはるの月のかげ

あはれみづらきまはるの月のかげ

あはれみづらきまはるの月のかげ

あはれみづらきまはるの月のかげ

あはれみづらきまはるの月のかげ

桃華葉葉不杉の様目の扇せり
糸のあまるとあぶむすびま
とこひらあむすびとらへまを
か

家
白
吉木家
やまて

以上八首

いゆ

夫雅河家
玉
山城
河

く

万葉十
今更雪雲目ハ方晴火之燦留春部
常成西物乎

後雅三家
今

伊勢

家
あ

あ

古雅
山城
あ

あ

玉雅二通
あ

代
あ

貴之集
あ

古
あ

あ

あ

か

万六
あ

同
あ

古雅上
あ

あ

万葉六
神加見欲賀藍三吉野乃瀬河
寺雖見不飽鴨

後雜おなききこひしむちぎり
のこの水たふさふさしきつて後
山城
同中勢
さうらのちまのふさふさや
と後

同雜三
いづれはしほくさるる
おまのつらつら
融公男

同
大和
家の藤らふよ名もあはし
はるる
光孝天皇皇子

能宣集
うきつらなまきりくわははのん
おのつらなまきりくわははのん
吉雜上
おのつらなまきりくわははのん
かき

同家
おのつらなまきりくわははのん
おのつらなまきりくわははのん
同三條のちま
おのつらなまきりくわははのん

和名抄雲雨類云唐韵云濼和名雨
美雨水也

々揃する小新千載も家集あもむの
ふる日あふるあふ花のちりかふる
〜〜〜あつされい〜〜〜花さあも
〜〜〜あつされい〜〜〜花さあも
けんさつ〜〜〜あやまつておほは
佐賀をたぐへてあ〜〜〜を文あま
おひがめ〜〜〜おる〜〜〜

ふさ〜〜〜

世の中あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ
ふさ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ
新千春下兼輔家小町集小大君集夫雜水
〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ
たきのの町大
〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ
〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ

うた〜〜〜

袖土
うた〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ
〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ

同和
うた〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ
〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ

河薄雲
うた〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ
〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ
後徳五
〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ

とち

らんきももい縁あはれ津雨
あはれもさなり

後慈一家 第五重出
筑前

澤

万葉七
朝入為流海未通女等之神通沾西
衣雖干跡不乾

万 後春上 赤人集 家持集
第六重出

由きげのあふもりの十とめれぬ万
袖不たてしうあはれ
いまの後

いぬ

古德二家 山城
まゝなるほの海をるるふらびはるるふらびはるるふらびはるるふらびはるる
あはれもさなり

ふら

古德四素性 家新撰
おほもろげの海をるるふらびはるるふらびはるるふらびはるるふらびはるる

あけいさ
つ新

拾遺物名ま〜〜〜
うらた〜〜〜
うらた〜〜〜

いぬ〜〜〜
ふら〜〜〜
あはれ〜〜〜

三之十六

五上 第五重出

いぬ〜〜〜
あはれ〜〜〜

第二重出

せ

伊勢

もみぢのりぢ〜〜〜
川の原は〜〜〜

やうぢぢ

あはれ〜〜〜
あはれ〜〜〜

清原ふらぢ

新十冬
山川の〜〜〜

大伴ふらぢ

古事記神代記青人草之落苦瀬而
惠禮時可助告云
宜長云雨ハ〜〜〜
せあはせ〜〜〜
九て堅〜〜〜
とく〜〜〜
てあはせ〜〜〜
あはれ〜〜〜
万葉四 大伴郎女
千鳥鳴佐保乃河瀬之小浪止時毛
無吾鬱雨

入射腰... 古今戀五

万葉十二 湖轉雨滿來能能能益二戀者雖判

伊勢物語

契沖云此... 和歌九品

古今戀一

いせの海は... 万葉十二

新古今戀五

夫羅五衣... 備前

万七 風感五... 万五

あはれ... 同

海條巴出

古今戀一

らぬを懐後拾ふはまづつきの者も
まひてのせむれりう懐の都りハ
浪上田村慶徳守所指軍より
下られしよりゆづりか説あるハ
いりおなつらあ
朝野群載卷六式外神社進命御ト
證文云陸奥国浮島塩竈島海三箇
社承保二年十二月御ト坐云

万葉七
吾情湯谷絶谷淨尊邊毛與毛依勝
益士

貞淵云万葉高市歌一首とあり恐是
言市人而非言市皇乎

万葉七
大葉山霞家狹夜深而吾舩持泊傳
不知文

同十九 多治真人
住吉爾伊都久祝之神言等行得毛
來等毛舩波早家無
契沖云住吉時林知夫利之神等皆
海路をす。神々しむればの神と
ハよめるあり

神九
あまのみこにこしきりしほのたけ
つとみしほのたけ

續後慮一ノイガ袖
陸奥
みちのふらりしほのたけ

古大歌所
つとみしほのたけ

同 古本伊勢集
みちのふらりしほのたけ

伊勢集 袖
塔竈の浦のたけ

ふ 祢

万四
大船のたけ

古意下ノ人
いてはる人

人ぬ

万五
みちのたけ

同上 古本入集 夫難三路人名
つとみしほのたけ

万七 夫難七浦ノ人
海士のたけ

たぬ

後雜三 伊家
たぬ

万九 夫難七湊ノ人
あまのたけ

同春日職
つとみしほのたけ

續十 羈旅ノ人
つとみしほのたけ

人ぬ

万九
つとみしほのたけ

同上 夫難五嶋 又入津ノ人
あまのたけ

たぬ

同三 五雜二ノ人
つとみしほのたけ

契沖云ふをば...
...とありふをば...
...とありふをば...
...とありふをば...

志々山歌字名下集楠山拾葉等
...の豊後とあり契沖ハ三河とあり
古事記傳卷二十五抄抄...
たりそれより

真淵云不のく...
...のく...
...のく...
...のく...

トゾヨミテ泣ケルコレハ管量ガ返テ語
ルヲ即テ言傳ヘタルト也
...の...
...の...

契沖云藤州...
...の...
...の...

格致鏡原引世本云古者觀落葉以
造舟
土佐日記云...
...の...
...の...

本吟云...
...の...
...の...

躬恒集

か...の...
...の...
...の...

万十一
...の...
...の...
...の...

後徳三家新明
...の...
...の...
...の...

小町 傳未詳

志々山打越...
...の...
...の...

人まゝ

不の...とあり...
...の...
...の...

沙汰海擧 傳未詳

大船...
...の...
...の...

世の中を何...
...の...
...の...

白波のお...
...の...
...の...

深書文

古秋下興...
...の...
...の...

しづめ

...の...
...の...
...の...

かちおん 藤原發生男

古慮...
...の...
...の...

万葉七
梶之音曾勢難為海和通女與藻
柳雨舟出為等思母

拾遺別 係よしたま妻

とらふにやぬまののちとらふ
まひこののやおまひとらふ

万葉三鴨君足人が長歌
百磯城之大官人乃退出而遊船爾
波云

和名抄漁釣具云將勳切韵云泛子
漢語抄釣別名也

ひるまゝ海士の釣舟に...
無名

みづのうらみ...
万士

くろくはうち...
夫雜五海人九古本集
代雜三

は

いかに...
古意

舟の...
舟條已出

風...
舟條已出

いそ...
万七 夫雜七海人九古本集

志...
万七 夫雜七海人九古本集
筑前

い

大...
同十一 古本八九集

和名抄海菜類云本朝式云莫鳴菜
奈乃里曾漢語抄云神馬藻上
騎之
菰也

書紀允恭紀衣通郎姬歌之曰
等虛辞陪通枳弥母阿閉柳毛異合

魚...
同

さ

お...
夫雜五船 五海人九古本集
家

あ

新...
新勅意 万士 夫雜十五

候...
万士

あ...
夫雜十五船 万士 夫雜十五

あ...
童

あ

あ...
万十 赤人集 後九集
夫雜津人九 筑前

あ

備等利半跡能波摩毛能余留等根
等根弘時天皇謂衣通郎姬曰是歌
不可聆他人皇后聞必大恨故時人
號濱藤謂奈能利曾毛也云

万葉十五 中臣宅守

安我未許曾世伎夜麻許要氏許已
爾安良米許已呂波伊毛爾與里爾
之母能乎

万葉十七 大伴池主
之良奈美能與世久流多麻毛余能
安比太母都誓底民仁許武吉欲伎
波麻備乎
赤添衛門集

万葉六 小野老朝臣
時風應成成取香推海潮千浦爾王
藤前而名

契沖云八まの大海を八まの岸際と
りふらむはのらへんあくわ
あつとらふ波のさかこふあつと
てかひくさる体と

万三又十二
みささるささ後よすなつたつた
紫のあつと浦のさのつたの磯よたひつと時まつた
屋 紀伊

屋

拾遺上八ノ一
あつとささるささ後よすなつたつた

万七 新十卷三ノ一ノ一
はらの名さの浦はあひまのらさるささ

人ささるささのらさるささのらさるささ

古雜下八ノ一ノ一 新撰
あつとささるささのらさるささ

万三ノ一ノ一 新撰 夫雜十
玉ささるささのらさるささ

ささるささのらさるささのらさるささ

伊勢

後雜田 家 夫雜十七海人
いささるささのらさるささのらさるささ

万十二
あつとささるささのらさるささ

新勅意
あつとささるささのらさるささ

あつとささるささのらさるささ

あつとささる

万三 夫雜七浦
あつとささるささのらさるささ

人ささる

同七 夫雜一風 又五海ノ一ノ一
あつとささるささのらさるささ

同 夫雜一風 又五海ノ一ノ一
あつとささるささのらさるささ

同 夫雜一風 又五海ノ一ノ一
あつとささるささのらさるささ

同 夫雜一風 又五海ノ一ノ一
あつとささるささのらさるささ

同 夫雜一風 又五海ノ一ノ一
あつとささるささのらさるささ

つるゑ

素性集

たよりなくあきさらけゆきまきまき
かへたまのつらきつらきつらき

古今戀二

友則

あきさらけの枕のしほはあはれど
くもももめはあひながあはれど
同雜下

このふはよ
あきさらけのつらきつらきつらき
あきさらけのつらきつらきつらき

續後拾華 興風集 夫雜十一

ふはれをてつらきつらきつらき

古戀三

大いふにが名は清きかあはれ

素性

たよりなくあきさらけゆきまきまき

つらき

古戀三

ふはれをてつらきつらきつらき

夫雜十一

あきさらけのつらきつらきつらき

後拾華 伊勢 家

あきさらけのつらきつらきつらき

古戀三

あきさらけのつらきつらきつらき

新古戀五

あきさらけのつらきつらきつらき

伊勢乃白永郎之朝魚夕菜雨潜云
鯉貝之獨念荷指夫

万葉十一

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

あきさらけのつらきつらきつらき

拾遺集 古今伊勢集 浦の... ぞ拾

あまの

古雑上家 古家 浦の... 古

拾遺集五 古今伊勢集

あまの

万九 夫雑 浦の... 万

伊勢集 代意三 浦の... 伊

あまの

後雑一家 浦の... 後

契沖云々の...

万七 夫雑 浦の... 万

尾張 浦の...

あまの

新吉徳 家 浦の...

後意三健京 家 浦の...

あまの

中物...

古新 家 浦の...

万三長里 夫雑 浦の...

あまの

万又十五 拾雜上 家 夫雑七 浦の...

同九 浦の...

人丸集

契沖云々の...

いひかへしつたふ

貝

續後撰卷之十 夫雑
いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

古今昔みけ

古今昔みけ

出観集

いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

万土 夫雑七浦
いひかへしつたふ

同 新拾遺
いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

清正集

いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

万葉九 宇合御歌
山品乃石田乃小野之母蘇原見作
哉公之山道越良牟

万十二 家持集
いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

後雑
いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

いひかへしつたふ

袖中抄卷十八云むろのやまよ下野
 風の吹中よ侍あり俗ハむろの八時
 とぞいふむろハ俗の名取その中
 中よ清水の中けのむろがけ
 みゆるこ云

古雑七ノ一ノ新撰神 中ノ新
 續古徳一ノ一ノ
 夫雑

戒仙は河 傳未詳

夜のそんあれイムうの時
 一ノ一ノ母後あり

後徳三
 續古徳四ノ一ノ
 夫雑

ていへる書紀雄略紀は蓬萊とト
 コヨとよめつていへる名義は古
 事記傳卷八よ

古雑七ノ一ノ
 万七新勅雜田一ノ一ノ夫雑五又七浦初
 夫雑五ノ一ノ
 夫雑

たしめ

伊勢物語
 いざうらをのたしめし人
 およよ

夫雑七ノ一ノ河明右 播磨
 同 紀伊
 同 紀伊
 新吉徳一ノ一ノ 夫
 駿河

人

まよりの漢名新かあが万葉に
 まよりの漢名新かあが

第ニ出
 拾遺五ノ一ノ
 万七 古本八九集
 倭名

人

袖中抄卷三云めいりく女の人

古歌所 童

たのむの海にまはるる波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

催馬樂風俗歌云多万多礼乃半加
女子奈加仁須惠天阿流之者毛也
佐加奈家幾二佐加奈止利仁已由
流木乃伊曾乃和加女加利阿由二
云

同雜上 家

まはるるのたまにうらやまの波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

はなぬま

まはるるのたまにうらやまの波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

忠 谷

まはるるのたまにうらやまの波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

浪

まはるるのたまにうらやまの波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

舞 之

まはるるのたまにうらやまの波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

万葉五 葛井大夫
鳥梅能波奈伊麻佐可利奈理意母
布度知加射之爾斯且奈伊麻佐可
利奈理

人 之

まはるるのたまにうらやまの波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

まはるるのたまにうらやまの波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

まはるるのたまにうらやまの波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

まはるるのたまにうらやまの波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

まはるるのたまにうらやまの波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

まはるるのたまにうらやまの波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

ま ぬ

まはるるのたまにうらやまの波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

ま ぬ

まはるるのたまにうらやまの波のしほはなほまほの沖をわかれあこ
ら

古松 新撰 家

もみぢのあぐりてかたの海よりふりかへゆぞ
やうらん 古新家

おまひ

うらんのたて
万葉を平

万三河太夫

おまひのあぐりてかたの海よりふりかへゆぞ
おまひ

第三出

大臣大紫連子之男也

石川のお母ぎさくはまらちか
み々をうつひひあはれあむ
此人名うけり代匠記は宮麻呂
と定め考は足人と定めれり
足人の父祖赤詳宮麻呂は近江朝
大臣大紫連子之男也

